

防災ラジオドラマ

グループ名 「倉敷市立中庄小学校 運営委員会」

タイトル 「今、ぼくにできること」

① 周治の家

NA …平成23年3月11日 東日本大震災。

ぼくはあの日をさかいに、災害への意識が変わった

♪ かちや (ドアが開く音)

周治 …ただいまー！

お母さん…おかえりー周治ー、ちよつと来てごらん！大変よー！

周治 …えーなにー？

♪ テレビの実況中継が流れる (パラパラパラ ヘリコプターの音)

アナウンサー…こちら陸前高田市上空です。大変なことになっています。

あ！津波が、津波が、家を車を飲み込んでいます！

周治 …うわっ！どしたん、これ…やばくねー？

お母さん…ちよつと…大変よ、これは…(独り言っぼく)

NA …ぼくはこのとき、東日本大震災の悲惨さにまだ気付いていなかった。

② 学校

♪ キーンコーン (チャイムの音)

委員長 …それでは、今日の議題はこれで終わります。ところで、みんな、先週の

金曜日のニュースみましたか？東日本大震災の。

周治 …見た見たー！すごいことになったよな。

さき …私、ドラマかなんかの映像かと思ったー。

ともき …おれ金曜日、見たい番組あったのにー

わかな …あんた！なんて無神経なことゆうんよ！

委員長 …えつとー、そこで提案なんですけど、中庄小学校の運営委員会として、

なにかできることはないかなあ。ちょっと考えてみてくれませんか？

わかかな　：被災地に何か送ろうよ

ともき　　：えー！まじでー

周治　　　：なあなあDSとかよくね？学校行かんでえーし、避難所で遊べるしー！

わかかな　：ちよっと、なにそれー。私は生活必需品がいいと思うな。

ともき　　：もう別にいんじゃない？なんも送らんでも・・・

わかかな　：はあっ？！生活に必要な物はないと困るでしょう？

周治　　　：そりやそうだけど・・・でもやっぱおれはゲームがないと子どもとかは楽しくない

わかかな　：今はゲームより毛布とか日常にに使うものが必要なの！

ともき　　：ああっもうめんどくせー。

周治　　　：ゲームがいるって！！

わかかな　：いいえ！毛布よ！！

さき　　　：まあまあ。

委員長　　：はい！静かにしてください！！つづきは明日また話し合いたいと思います。今日帰っておうちの人の人にいろいろ聞いてみてください。

ナレーション　：そんな感じで月曜日の運営委員会は終わった。ぼくは震災のこと

なんかそつちのりで、自分の欲

③ 周治の家　　：かちや(ドアが開く音)

お母さん　　：おかえり周治ー

周治　　　　：うん、ただいま・・・

お母さん　　：どしたん周治？いつもの元気がないがー。

周治　　　　：うーん。あんなあ、今日の運営委員会であ・・・

お母さん

(回想シーンを想起させるような音)

お母さん　　：なんですってーっ！！このっ！！ばかむすこがーっ！！

♪ パーン！！ガッチャーン(周治がたおれる音)

周治　　　　：いってー！なんなあー！！

お母さん　　：本当にこの子ったらなんてこというの！

周治　　　　：だってー、ほんとにそう思ったんじゃない！

お母さん　　：今、被災地がどんな状態かほんとに分かつとん？周治だつて見たじゃろう。あのニュース建物の屋上で救助を待っている人たち・・・子どもを捜すお母さん。まだまだ悲しい出来事がたくさんあるんよ。それなのに自分のほしいものばかり次から次へと・・・私た

ちがすんでいる岡山県は比較的災害の少ない地域だって言われとるのよ、しつとるじやろう。だから住んでいる人たちの災害に対する意識が低いんよ！そんなお祭り騒ぎみたいな話し合い情けないわ。あの映像は映画じゃないんよ。本気で被災地のためににかしようと思うんなら相手の気持ちになって今の周治たちにできることを一生懸命考えてごらん。

NA

：母さんの言うとおりで。ぼくは間違ってた。ふとんに入ってもずつとそのことを考えていた。もしぼくが被災していたら・・・もし家族に会えなくなってしまうたら・・・いうんなことを考えていた。考えれば考えるほどこわくなってなかなか眠れなかった。

④ 学校

キーンコーン(チャイムの音)

委員長

：これから運営委員会を始めます。昨日話し合いが途中で終わってしまっただけみんな、何かいい考えありましたか？

さき

：はい、私は義援金を集めるのがいいと思います。

わか

：賛成！募金なら全校のみんなにも呼びかけやすいしね。

とも

：賛成！！

さき

：よかったー。

わか

：ところで周治はどうなんよ。

周治

：え おれは・・・

わか

：なんか意見あるでしょう！

周治

：実は昨日あったことうちで話したんだ。そしたら・・・母さんにかなり叱られて。自分勝手なことばかり言ってる、ごめん！！今はゲームなんて言ってるときじゃないってわかったんだ。いま、被災地で必要なものって何だろうって考えてたんだ。

さき

：そっかその通りだね

とも

：反省せんとなあ・・・

わか

：周治が言ってたゲームだって、そのうちきつと必要になる時がくると思う。今はまだ地震の爪痕がひどくてゲームなんて気持ちになれないかもしれないけど、いつかそれで遊ぶくらい、おだやかな日が戻ってくればいいね。

一同

：うん！！

委員長

：では中庄小学校の運営委員会としては義援金を集めることにしたいと思います。そのことをお昼の放送で全校に呼びかけることにしましょう。

ナレーション

：いつかこんな話を聞いたことがある。高知県では、暴風や高潮、大雨警報が出たら、一階のたたみを二階に持って行き車を高台に移動するそうだ。岡山に住んでいるぼくたちときたら学校か休みにならないかわくわくしながらニュースを見ている。この違いは何だろう・・・きっと母さんがタベ言ってた。「岡山県は災害が少ないという安心感からくるものだろう。でも今回の東日本大震災でぼくの考えは変わった。もしこの災害が自分たちの身に起きていたらどうだったんだろうって考えることが大切なんだ。そう、そのために日ごろから家族や学校、地域で災害についてもっと意識を高め、非常時への備えをしていかなければならないんだ。

数カ月後・・・ぼくは母さんに頼んで、被災地にDSを送ってもらった。きつとぼくみたいな小学生が「まってました！」とばかりに、遊んでくれていることだろう・・・

そうであってほしいなあって思っている。

♪テレビの実況中継が流れる(バラバラバラ ヘリコプターの音)

アナウンサー：こちら陸前高田市総合体育館です。

被災地では今もおがれきの撤去作業や仮設住宅の建設などで大変な日々が続いています。しかし現地では少しずつではありますが子どもたちの笑い声や人々の活気が戻ってきました。こちらでは先日子どもたちに人気の小型ゲーム機十数台が送られてきました。被災地ではこうした生活必需品以外のものを求める声も出始めてきています。またライフラインの復旧も少しずつめどがついてきています。

みんな

：被災地の一日も早い復興をお祈りしています。